ジオコラム

あかいわの大地の成り立ち

⑤吉備高原

吉備高原は日本で最も安定した大地

吉備高原は、岡山県を中心として東西約170km、南北約45km、深さ約20kmの巨大な岩盤です。地質はペルム紀から白亜紀にかけて（約3億年前～約6000万年前）形成された岩石を主体として、約3400万年前のアジア大陸を流れていた河川の堆積物（吉備層群周匝層）が分布しています。吉備層群周匝層には水平方向および垂直方向の大きな変位や変形を受けた形跡がなく、現在でも北から南へ、約40km以上にわたってかつての流路が追跡できます。このことは、吉備層群周匝層を載せた吉備高原自体が、少なくとも約3400万年前から現在までの間、安定した大地であったことを示しています。吉備層群周匝層は赤磐市吉井B&G海洋センター多目的広場で最もよく観察することができます。

ジオポイント

●赤色土壌（赤土）

吉備高原の表層は激しく風化されて、鉄とアルミニウムの水酸化物を主成分とする赤色土壌（赤土）に変化しています。赤磐市北部に分布する赤土の層厚は6mを超えています。このような特徴は、アジア大陸やアフリカ大陸などの長時間太陽光にさらされるような熱帯環境下で形成されるラテライト（紅土）のものと良く似ています。赤土の存在は、吉備高原が長期間に渡って大陸のように安定していた間接的な証拠です。

「NPO法人地球年代学ネットワーク（jGnet）」は、地域の皆さんへ地形や地質などについてやさしく解説する講座やサロンを随時開催しています。「jGnet」の先生方のお話を聞いてみませんか？ 興味のある人は、「地球史研究所」へご連絡ください。

もっと知りたくなった人は、地球史研究所の先生に聞いてみよう！

▶地球史研究所 ☎956-3538（※外出中で不在のときもあります）

●問い合わせ先／本庁政策推進課 ☎955-2692